

## 文法用語の説明

### カ行

#### 格（かく）

ウルドゥー語には、主格（もしくは直格）、後置格（もしくは、斜格、従格）と、呼格の3つがあります。

#### 過去分詞（かこぶんし）

動詞の変化形の1つです。過去分詞は語尾が、ā（および e、ī、īn）で終わります。どの語尾になるかは、主語の性、数、格により変わります。

#### 現在分詞（げんざいぶんし）

動詞の変化形の1つです。不定詞の語尾が nā で終わるのに対し、この分詞は語尾が tā（および te、tī、tīn）で終わります。

#### 硬口蓋（こうこうがい）

口の中で、上歯のうしろにある、硬い部分を言います。日本語やウルドゥー語で「チャ」や「ジャ」の音を発音する場合には、舌がこの部分に付きます。

#### 後置格（こうちかく： 斜格（しゃかく）、従格（じゅうかく）とも）

後ろに後置詞が来る場合の名詞や代名詞の形を指します。ウルドゥー語の名詞や代名詞は、その後ろに後置詞が来る場合、語尾変化をするものがあります。

#### 後置詞（こうちし）

日本語の助詞に似た働きをする語彙です。英語などの前置詞が、名詞や代名詞の前に置かれるのに対して、後置詞は、名詞などのあとに置かれることからこう呼ばれます。

#### 語幹（ごかん）

動詞は、語幹と語尾に分かれます。動詞は例外なく nā という語尾で終わりますが、動詞の中で、nā より前を語幹、nā の部分を語尾と呼びます。たとえば、لکھنا lik<sup>h</sup>nā（書く）という動詞の語幹は لک lik<sup>h</sup>、語尾は ٰ nā となります。

#### 語尾（ごび）

動詞の不定詞では nā、現在分詞では tā、過去分詞では ā の部分を指します。

## サ行

斜格（しゃかく）

後置格（こうちかく）の項を参照。

従格（じゅうかく）

後置格（こうちかく）の項を参照。

重母音（じゅうぼいん）

主格（しゅかく:直格とも）

文章の中で、主語になる名詞や代名詞の形を指します。名詞や代名詞の場合、一般的には、辞書にはこの主格の形のみが掲載されています。

女性形（じょせいけい）

名詞に、男性名詞と女性名詞があるように、動詞の活用にも、男性形と女性形があります。女性形は、主語が女性名詞（もしくは相当語）の場合に、現れます。

## タ行

単数形（たんすうけい）(singular)

数えられる者を表す名詞の変化形のうち、1つのものを示す形です。

男性形（だんせいけい）

名詞に、男性名詞と女性名詞があるように、動詞の活用にも、男性形と女性形があります。男性形は、主語が男性名詞（もしくは相当語）の場合に、現れます。

単母音

転写記号（てんしゃきごう）

ウルドゥー語は、ウルドゥー文字を使って表記しますが、この文字は原則として短母音を書き表すことができません。したがって、文字を見てもどういふ発音なのかは、その語彙を知らないとわかりません。そこで、本書ではローマ字を使って、発音の補助にするためのローマ字を併記しています。このローマ字を転写記号と呼びますが、あくまでも便宜的なもので、転写記号の表記法は1つに定まっているわけではありません。このコースで用いている転写記号については、こちらをご覧ください。

## ナ行

軟口蓋（なんこうがい）

口の中で、上歯のうしろの硬口蓋よりもうしろにある、少し柔らかい部分を指します。日本語やウルドゥー語で「カ」や「ガ」を発音する場合、舌がこの部分に付きます。

## ハ行

複数形（ふくすうけい）(plural)

数えられるものを表す名詞には、1つのものを示す形と、2つ以上のものを示す形がありますが、複数形は、2つ以上のものを示す形です。ウルドゥー語では、男性名詞と女性名詞で複数形の作り方が異なります。

不定詞（ふていし）（不定形とも）


ウルドゥー語の動詞は、基本となる形が例外なく nā という語尾で終わります。この、nā で終わる形を不定詞（不定形）と呼びます。また、辞書には、動詞については不定詞のみが掲載されており、ほかの変化形は掲載されていないので、注意が必要です。

分詞（ぶんし）

ウルドゥー語には、現在分詞と過去分詞、未来分詞があります。

## ヤ行

与格（よかく）

名詞（もしくは相当語）に後置詞  (ko) が付加されることを示します。その際、名詞は後置格（もしくは斜格、従格）形となります。